

KDS NEWS

dosokai

2022 no.189



第62回 定期総会開催 および 2022年 桑沢新人賞 表彰式開催のお知らせ

2022年5月28日(土)
15:00~17:00
JR 原宿駅前 WITH HARAJUKU 3F
LIFORK 原宿 LOUNGE



桑沢デザイン研究所同窓生の皆さまへ

長引くコロナ禍の中、同窓会は引き続き「今できること」を確実に実現すべく、活動を続けております。

昨年の第29回桑沢賞は、初のオンライン表彰式に挑戦いたしました。
リアルに表彰式を開催することが叶わなかった代わりに、記念に残る動画を同窓会理事・委員が役割分担して制作し、インターネット上に公開しました。

さて次回、桑沢賞は第30回という節目を迎えます。
しかしいまだに新型コロナウイルス感染症拡大の状況が読めず、
今年の開催ではリスクが高いことなどから、協議の結果、
**第30回桑沢賞本賞の選定・表彰を、2022年ではなく、
来年（2023年）に繰延べすることといたしました。**

尚、桑沢新人賞は本年の卒業生作品展「桑沢2022」での発表作品を対象に、
同窓会理事・委員会にて選考いたしました。

桑沢デザイン研究所同窓会 第62回定期総会および
2022年桑沢新人賞の表彰式は、5月28日（土）に開催する予定です。
これまで桑沢賞表彰式を開催していた原宿クエストホールの閉館に伴い、
原宿駅前に新たに誕生したビルにて開催いたします。

皆さまのご参加をお待ちしております。



2022年5月吉日

桑沢デザイン研究所同窓会

会長 八十島 博明

第62回 桑沢デザイン研究所同窓会 定期総会開催および 2022年桑沢新人賞表彰式開催のお知らせ

日時

2022年5月28日（土）

場所

JR 原宿駅前 WITH HARAJUKU 3F LIFORK 原宿 LOUNGE

新型コロナウイルス感染防止に充分配慮し開催いたします。ご来場の方はマスクの着用をお願いします。
飲食の提供はありません。

15:00～15:40 第62回桑沢デザイン研究所定期総会
2021年度の活動報告、会計報告、
2022年度の活動方針、
予算などの議事・報告を行います。

16:00～17:00 2022年新人賞表彰式

2022年桑沢新人賞（敬称略）

丹下佳晴（3A・浅葉克己ゼミ）

木村汐里（3C・森井ユカゼミ）

LIU TI SHENG（3A・浅葉克己ゼミ）

葉之皓（3E・KEIKO + MANABU ゼミ）

山元美柚（3A・伊藤透ゼミ）

山口裕大（3F・藤田恭一ゼミ）

袁浩（3A・白根ゆたんぼゼミ）

樋口魁（夜間 VD2B）



LIFORK 原宿 LOUNGE

2021(令和3) 年度 桑沢デザイン研究所同窓会

活動報告・会計報告(速報)

2021(令和3)年度 活動報告

2021 年

- 4月27日(火)～5月5日(水) 第2回九州支部展開催
- 5月1日(土) 同窓会ニュース188号発行
- 5月～7月初旬 動画「2021年 第29回桑沢賞 オンライン表彰式」の制作
- 7月15日(木) 動画「2021年 第29回桑沢賞 オンライン表彰式」をYouTubeにて公開
- 9月11日(土) オンライン同窓会

2022 年

- 2月25日(金)～2月27日(日) 卒業生作品展「桑沢2022」に協賛
- 3月19日(土) 桑沢デザイン研究所卒業式に出席
- 4月9日(土) 2022年桑沢新人賞選考会(オンライン)

- 第61回定期総会(オンライン)
- 理事・委員会7回
- 桑沢賞実行委員会5回(うち1回をオンライン同窓会に変更)
- NEWS189編集会議3回
- 同窓会ホームページ・SNS 更新 随時
- 桑沢祭に協賛
- 卒業アルバム制作に協賛

2021(令和3)年度 収支・決算(単位:円)

収入の部	科目	2022年度予算	2021年度予算	2021年度決算	増減
1.	前期繰越金	4,026,723	2,116,158	2,116,158	0
収入の部	財産繰入	0	4,169,749	4,169,749	0
	終身会費	9,180,000	9,870,000	9,870,000	0
	受取利息	40	40	89	49
	事務受託費	0	1,600,000	0	△1,600,000
	雑収入	10,000	10,000	0	△10,000
	合計	13,216,763	17,765,947	16,155,996	△1,609,951
2.	財産繰入	0	0	0	0
事業収入	夏期講座収入	2,000,000	3,300,000	0	△3,300,000
	桑沢デザイン塾収入	10,000	50,000	0	△50,000
	受取利息	10	10	12	2
	合計	2,010,010	3,350,010	12	△3,349,998
3.	財産繰入	2,325,299	0	0	0
桑沢賞収入	寄付金繰入	5,000,000	5,000,000	5,000,000	0
	受取利息	20	10	29	19
	合計	7,325,319	5,000,010	5,000,029	19

支出の部	科目	2022年度予算	2021年度予算	2021年度決算	増減
1.	広報費	2,000,000	2,000,000	1,872,742	△127,258
支出の部	ホームページ運営費	400,000	1,000,000	314,293	△685,707
	通信費	130,000	130,000	106,303	△23,697
	会議費	200,000	300,000	71,027	△228,973
	企画費	400,000	400,000	36,988	△363,012
	事務費	3,150,000	3,150,000	3,114,616	△35,384
	事務用品費	600,000	600,000	194,660	△405,340
	総会費	1,000,000	1,000,000	852,500	△147,500
	他団体交際費	600,000	1,000,000	376,780	△623,220
	支部費	200,000	200,000	52,210	△147,790
	リース料その他	130,000	130,000	118,800	△11,200
	雑費	40,000	40,000	18,354	△21,646
	桑沢賞寄付金	3,500,000	5,000,000	5,000,000	0
	予備費	160,000	200,000	0	△200,000
	基本財産繰入	0	2,500,000	0	△2,500,000
	次期繰越金	706,763	115,947	4,026,723	3,910,776
	合計	13,216,763	17,765,947	16,155,996	△1,609,951
2.	夏期講座経費	1,700,000	1,700,000	21,120	△1,678,880
事業支出	桑沢デザイン塾経費	10,000	25,000	0	△25,000
	事務委託費	0	1,600,000	0	△1,600,000
	財産繰入	300,010	25,010	0	△25,010
	合計	2,010,010	3,350,010	21,120	△3,328,890
3.	諸経費	2,500,000	5,000,000	2,674,730	△2,325,270
桑沢賞支出	財産繰入	4,825,319	10	2,325,299	2,325,289
	合計	7,325,319	5,000,010	5,000,029	19

同窓会役員一覧

- 会長 八十島博明
- 副会長 田辺千晶 森井久寿生
- 理事(会長・副会長を含む)
 - 赤羽なつみ 稲村彰保 日下部昌子
 - 田辺千晶 野口英明 細山歩
 - 本田理恵 宮澤太地 森井久寿生
 - 八十島博明 飯内雄美 山越史洋
 - 横森美奈子
- 監事 大豆生田守 大槻高康

- 特別委員 近藤信一 中西元男 薬師神親彦 山田脩二
- 委員 新日恵 石坂昌也 小川航司
 - 尾形優子(北海道支部長) 片岡治(関西支部長)
 - 後藤和樹 雑賀吉人 澤田昂之介 勝呂洋介
 - 滝口未来 田代卓 高橋祐子 富野隆平
 - 中村哲夫 野田博生(九州支部長) 畑秀樹
 - 林皇貴 平林千明 三上司
 - 宮畑周平(中・四国支部長)
 - 森井由佳 矢島裕丈 矢内原充志
 - 由良万紀子 吉田仁

- 名誉会長 工藤強勝(研究所所長)
- 顧問 浅葉克己(元所長)
- 市瀬昌昭(元所長)
- 原美夫(元同窓会副会長)
- 相談役 遠藤毅(研究所事務部長)
- 事務局 伊草喜久江

2023年度 専門学校桑沢デザイン研究所 推薦入学(同窓会推薦)募集のお知らせ

昨年度に引き続き、今年度も専門学校桑沢デザイン研究所より、同窓会に推薦入学募集の要請がありました。
つきましては、「自分の子供、孫を是非、桑沢に入学させたい」と希望される方は、9月末までに同窓会事務局にご連絡ください。
推薦入学関係書類をお送りいたします。

●募集人員: 若干名(総合デザイン科・昼間部/専攻デザイン科・夜間部) 推薦入学の試験は10月16日(日)を予定しています。

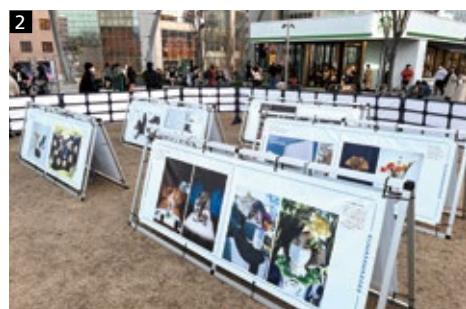
卒業生作品展 「桑沢 2022」が開催されました

続くコロナ禍の中での卒業生作品展が、無事2022年2月25日（金）～27日（日）に開かれ、好評のうちに閉幕しました。入場できる人数を時間ごとに設け、ネット予約の上で来場いただくという昨年同様のスタイルでしたが、定員に達する時間ははるかに速く、楽しみにして待ち構えてくださった方がいかに多かったかを実感しました。特にファッションショーはプラチナチケットとも言えるほどの争奪戦だったようです。また今回、卒展からの選抜作品の画像が3月5日（土）～18日（金）の間、MIYASHITA PARK（宮下公園跡地の複合施設）屋上の遊歩道の芝生エリアに展示され、行き交う人々の目を大いに楽しませました。

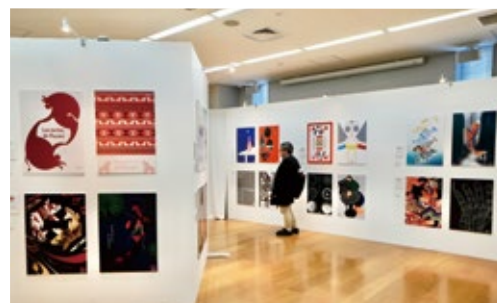
最終学年における卒業制作についての授業は前年度と違い、後期には対面授業がある程度可能になったこともあり、仕上げに向けて現物を見ながら丁寧にブラッシュアップすることもできました。ただ、コロナ禍以前の卒展には必ずあった、学生たちが現場で直接作品をアピールする貴重なプレゼンテーションの時間が今回もカットされてしまったので、来年こそは復活できることを祈っています。

現在桑沢の特設サイトには、「桑沢2022」で展示された多くの作品がアップされています。下記URLにアクセスしてぜひご覧ください。

<https://www.sotsuten-archive.kds.ac.jp/2022/>



1. 桑沢 2022 2・3. MIYASHITA PARK







2021年 第29回桑沢賞 「オンライン表彰式」が公開されました

一昨年から続いている新型コロナウイルス感染拡大の影響により2020年第28回桑沢賞は残念ながら中止となりました。2021年第29回は、受賞者の選定は順調に行われたものの、当初5月に東京・原宿クエストホールでの開催を予定していた表彰式は断念せざるを得ない状況となり、「オンライン表彰式」として動画で発表することになりました。

動画の進行役には例年表彰式の司会者を務めている安齋肇さん（1部49L2B）を迎えてスタジオ撮影を行い、受賞者の皆さんの受賞コメントと作品を編集する形で同窓会が制作し、7月15日にインターネット上に公開しました。

「桑沢賞」本賞は例年どおり自薦・他薦による応募を対象に、桑沢賞選考委員会〔審査員：下川一哉氏（デザインプロデューサー）、中川直樹氏（アートディレクター）、眞田岳彦さん（1部59D研C 衣服造形家）、横森美奈子さん（1部44L2A ファッションデザイナー）、高橋正実さん（1

部H08L研GD クリエイティブディレクター）により選考されました。また特別賞、スピリット賞は、同窓会理事・委員会にて選考。各賞の受賞者には表彰状、トロフィー、副賞（同窓会各支部の名産品を旬の時期に発送）、賞金が贈られました。

桑沢新人賞は卒業生作品展「桑沢2021」での発表作品を対象に、同窓会理事・委員会にて選考され、受賞の皆さんには賞状および記念品が贈られました。



*動画「オンライン表彰式」は同窓会ウェブサイトから視聴できます。



スタジオでの撮影風景。審査員の横森さんがスタイリストとしても活躍してくださりました！

桑沢賞 審査総評

横森 美奈子さん（1部44L2A）
ファッションデザイナー



コロナ禍を経て意識や価値観が変わった今回の桑沢賞の審査では、生きることや自分たちの暮らし、社会にとって大切なデザインという視点を「選考の軸」といたしました。その結果、ナチュラルで癒やされるイラストの阿部真由美さんと、工業最先端のプロダクトデザインの佐々木真也さん、お二人を選ばせていただきました。

阿部真由美さんは、本の装丁、絵本、そして多くの企業の商品パッケージなどでもたいへん幅広くお仕事をされています。対象を選ばない優しく温かな色調のイラストは、自然の力と豊かさ、美しさを感じさせてくれます。

佐々木真也さんは、日頃一般にあまり目に触

れることがない、工場や建設現場で活躍する産業用ロボットを中心にデザインをされ、すでに専門分野での評価も高いですが、コロナ禍の現在においてまた新たな活路・躍進を期待されています。

いわば両極端にも思える選考ですが、私たちの「いつもの暮らしを支える」という視点では共通しています。いずれも時代に要求されているということでは非常に今の時代を表す結果になったと思っております。また桑沢デザイン研究所出身者の活躍のテリトリーの広さということでも感慨深いものがありました。

阿部さん、佐々木さん、受賞本当におめでとうございます。



桑沢賞

阿部 真由美さん (1部 54L2B)

イラストレーター

1958年栃木県生まれ。1980年桑沢デザイン研究所 グラフィックデザイン科卒業。1985年よりイラストレーションの仕事始める。以来、約35年にわたり、四季折々の花や野菜、自然の植物など、見る人がホッと癒され、心が豊かになるようなやさしいイラストを、透明水彩で丁寧に描き続けている。

主な作品として、「フィガロジャポン」創刊号付録イラスト、花王「ミルキーパブ ホワイトローズ」「湯上がり爽快パブ」パッケージイラスト、ライオン「ソフラン アロマナチュラル」ボトルイラスト、三井住友信託銀行 通帳イラスト、高島屋「ぐるめ百華」表紙イラスト、講談社「かんたん家計ノート」「かんたん年金家計ノート」表紙、中山圭子著「和菓子 夢のかたち」「和菓子のほん」のさし絵、しかけ絵本「くだものどうぞ」「おやさいどうぞ」、サカタのタネ 企業カレンダーなど多数。主な受賞歴として、全国カレンダー展「日本印刷産業連合会会長賞」「日本印刷新聞社賞」「実行委員会奨励賞」など。2014年からは、生まれ育った栃木県に拠点を移し、花や野菜を育てながら季節感のある暮らしの絵を描き、ご自身のブログにも発表している。



受賞のことば

桑沢を卒業して40年が過ぎました。まさかイラストレーターとして長く仕事ができるなんて思ってもいませんでした。今回ノミネートにあたり初めてこれまでのことを振り返りました。卒業後イラストレーターになった同級生がいて「どうやってなったの?」と聞いたのが始まりです。真似をして私も描き溜めた絵を持って売り込みました。ネットのない時代ですから、電話をして絵を持って会いに行く方法です。個性のない絵でもずっ

と描き続けていれば自分らしさが出てくるだろうと漠然とした自信がありました。関わりのあった編集者、デザイナー、代理店の方々に支えてもらい仕事をしながら少しずつ学んでいった気がします。読者の方の反響もとても励みになりました。楽しい気持ちを届けるには、楽しく絵を描かないといけません。

受賞の知らせを聞いて大変驚きました。これまで出会った大勢の方へ感謝の気持ちでいっぱいになりました。コロナ禍の中で準備を進めてくださった同窓会の皆さま、審査員の先生にお礼を申し上げます。

どうもありがとうございました。



桑沢賞

佐々木 真也さん (1部 H06L研ID)

プロダクトデザイナー



受賞のことば

この度は、桑沢賞という名誉ある賞を頂戴し、光栄に思います。

桑沢在学中、卒業制作を指導していただいた故・金子富廣先生が設立した株式会社オーブに入社して26年が経ちます。当然、順調にここまで来たわけではなく、いただいた仕事を悩みながらもコツコツと続けていくうちに気がつけば26年、入社後も社長と社員ではなく、教師と生徒という関係で、常にデザインまた仕事について、金子先生からは多くのことを

学ばせていただきました。

この栄誉は決して私だけの成果ではなく、これまで私を指導し育てていただいた金子先生や先輩社員、デザインを任せられていただいたクライアントの方々のお蔭であると実感しています。

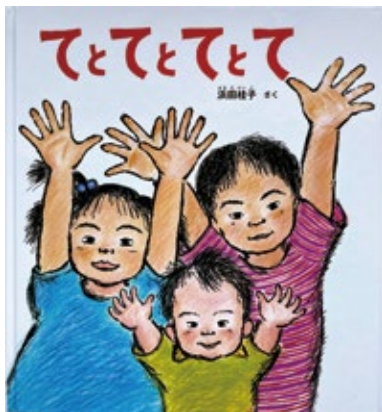
最後に、桑沢賞に推薦していただいたニドインダストリアルデザイン事務所所長の石井賢俊様、またこのような晴れがましい機会を与えていただいた桑沢賞関係者の皆様に御礼申し上げます。



桑沢スピリット賞

浜田 桂子さん (2部 43基礎C)

絵本作家



1947年 埼玉県生まれ。県立浦和第一女子高等学校時代に油絵を始め、桑沢デザイン研究所でデザインの基礎を学ぶなか桑澤洋子先生の講義を受け、感銘を受ける。

田中一光デザイン室に就職し、土門拳写真集『文案』の編集デザインなどに関わった。

1984年に、出産の体験をベースにした絵本『あやちゃんのおうまれたひ』で絵本作家デビュー。絵本の文と絵の両方を手がける制作を続けている。

主な著書として、福音館書店『てとてとてとて』、佼成出版社『あめふりあっくん』、ポプラ社『おやおやじゅくへようこそ』、理論社『おめでとうかいぎ』など多数。

2005年から日本・中国・韓国の12名の作家で平和をテーマにした絵本シリーズを共同出版するプロジェクトに参画。今までに10冊の絵本が3カ国で出版されている。2011年『へいわってどんなこと?』を出版。その香港版が、香港で優れた書籍に贈られる「2020年 Hong Kong Book Prize (香港図書賞)」を受賞。自由と民主主義を求め揺れ動く香港の人々に広く支持されている。

受賞のことば

この度思いがけず、桑沢スピリット賞を頂きました。

桑澤洋子先生の授業を直接受け、洋子先生のスピリットに勇気づけられた者として、大変光栄に存じます。

絵本を作る仕事は大好きです。読者である子どもは厳しい人たちで、五感、とりわけビジュアル感覚が鋭く、一方で著者への義理人情や付度は無く、絵本世界が心に響くかどうかだけでジャッジをします。そこが、いいなあと思うのです。

日本、中国、韓国の絵本作家たちと意見交換しながら制作した絵本『へいわってどんなこと?』は、中国、韓国の他、香港、ベトナムでも刊行されました。

絵本を抱え、さまざまな国に出かけていますが、子どもは絵本がとても好きです。

平壤の小学校で『へいわってどんなこと?』を読んだ時も、子どもたちから歓声があがりました。子どもの笑顔は周囲の大人の笑顔となり、共感が広がります。

今回の受賞は、こうした活動も励まして下さいました。ありがとうございました。

桑沢新人賞 卒業生作品展「桑沢 2021」において、優秀な作品を発表した学生に対して贈られます。



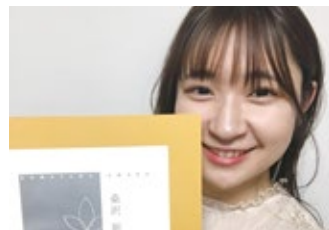
郭 玫秀さん (浅葉克己ゼミ)



中里 友美さん (森井ユカゼミ)



児玉 篤司さん (工藤強勝ゼミ)



浮ヶ谷 真悠さん (藤田恭一ゼミ)



作品名：南無阿弥陀仏



作品名：副葬品「shinobu」



作品名：日本語書体「凌霄花(のうぜんかずら)」



作品名：ombre flower

桑沢賞2021 特製賞状

城戸 雄介さん (1部 H13PD3D)
(2019年桑沢賞受賞)

齊藤 綾さん (1部 H13VD3C)
(ONE KILN)



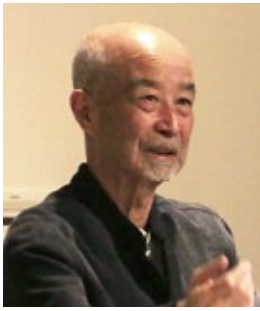
表彰状、案内状とともに、「価値観の再考」をテーマに作成しました。“本来であれば価値のない割れた器”や“木材・非木材・古紙などを主原料とした再生紙”。こういった人の目から外れてしまう様な素材に、先人たちの知恵やデザインを加えることによって、人の感情を豊かにできないかと考えました。

桑沢賞2021 Tシャツ

たむらしげるさん (2部 44PK)
(2019年桑沢特別賞受賞)



誰でも心の中に宝物を持っています。自分の絵本などに登場する、ランズロットというロボットに宝を持たせてみました。桑沢賞受賞者はその宝を最高の技術で目に見える形で表現できる人だと思います。上手とはいえない、良くいえば味のある手書き文字も絵の一部です。



桑沢特別賞

井上 耕一さん (1部 36L2A)
デザインリサーチャー

1962年桑沢デザイン研究所卒業。1971年より2003年までの長きにわたり、桑沢デザイン研究所にて建築・デザイン理論を教える。当時、モダンデザインの教材としての資料は少なく、その必要性からヨーロッパやアメリカへ行き、近代建築、デザイン、アートの作品を取材・撮影して、それらを授業に組み込んでいった。取材を続けていく中で徐々に自分のアイデンティティに気付き、欧米とは異なる独自の生活形態を持つアジアを横断する文化の共通性に着目して、アジア山間部や国境地帯に足繁く通う。

その地で伝統的な暮らしを続けている人々が西洋的な椅子を必要とせず、両足の裏を地面につけたまま腰をおろし、両膝を立ててしゃがんだ姿勢で様々な動作をし、必要に応じ低い腰掛けを使っている事に気づき、これを「あの坐り方」と名付け、2000年に『アジアに見るあの坐り方と低い腰掛け』を出版した。

これらフィールドリサーチを精力的に30年以上続け、民族の文化から生活用具、ファッションまでデザイン教育の現場に生かす等、源流を辿り現在のモダンデザインへと繋がる活動を今もなお続けている。



受賞のことば

最初、賞を受けることに戸惑いがありましたが、こういう仕事でも受賞対象になるのであれば、今後の為にもいいのではないかなと思うようになりました。

そもそも私が何故このようなことを始めたのかというと、当時は教材となる資料が今と違って少なかったのです。従ってまず、自分で見て歩いて、記録して作っていくしかありませんでした。その成果の一部を授業で使いながら、少しずつ広げていきました。



最初は近代デザインの中心であるヨーロッパや北アメリカが中心でしたが、やがて、アジアへ、さらに中近東、アフリカ、中南米へと広がっていきました。今考えるとよく続いたと思います。現在は先行きの見えないコロナ禍の中で、行きたいところはあっても、行くこともままならない状態になっています。

このたび桑沢特別賞を戴くことになりまして、ありがとうございます。多くの方のお力添えをいただき、感謝しております。



桑沢特別賞

浅葉 克己さん (1部 34L基A)
アートディレクター

1959年桑沢デザイン研究所リビングデザイン科基礎コース入学。1960年佐藤敬之輔タイポグラフィ研究所で5年間文字設計、エディトリアルデザインを修行、1964年ライトパブリシティに入社。1975年浅葉克己デザイン室を設立。日本の広告史に残る数多くの名作ポスター・コマニヤルを手掛けた。

代表的な作品に、サントリー「夢街道」、西武百貨店「おいしい生活」、武田薬品「アリナミンA」、三宅一生のロゴマーク関連など。受賞歴として、東京ADC最高賞、東京TDC賞、毎日デザイン賞、亀倉雄策賞、日本アカデミー賞最優秀美術賞、紫綬褒章、旭日小綬章など多数。

主な役職歴として、東京アートディレクターズクラブ 委員、東京ディレクターズクラブ 理事長、日本グラフィックデザイナー協会 理事、東京造形大学客員教授など。

2011年から桑沢デザイン研究所の第10代所長に就任。イメージリーダーとなって多くの斬新な企画を推進した。2020年3月に所長を退任。退任後も担当されているゼミでは、常にユニークなテーマを投げかけ、教育者として多くの優秀なデザイナーを世に送り出している。



受賞のことば

僕は110年続く 県立神奈川工業高校 図案科出身だ。卒業後は、友人の父親の勧めで横浜伊勢崎町三丁目の松喜屋百貨店宣伝部に入社した。宣伝部の先輩だった富井虎雄さんが進駐軍と一緒に働いたという佐藤敬之輔先生を紹介してくれた。

その後、桑沢デザイン研究所でもう1年勉強する機会をいただき、桑澤洋子先生の面接を受けた。洋子先生は超多忙で、昼食のうなぎを食べながら神工時代の作品を見てくれた。「そうね、こういう子



が入学するといいわね。」と言ってくれて入学が決まった。同級生には青葉益輝、遠藤亨がいた。長友啓典は、2年遅れて入学した。

桑沢卒業後は、佐藤敬之輔のところで5年間タイポグラフィを学んだ。1964年にライトパブリシティに入社し、広告を創り続け、1975年に浅葉克己デザイン室を設立した。

その後、桑沢デザイン研究所所長を9年務めた。前回の桑沢賞では三宅一生さんが受賞された。それに続く今回の受賞だ。ありがとうございます。

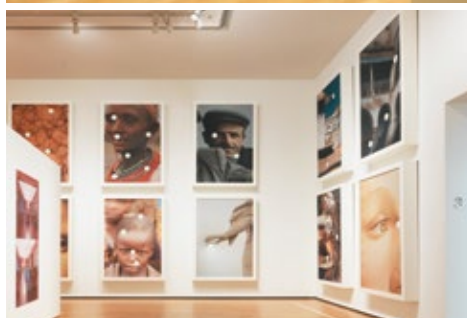
「矢萩喜從郎 新しく世界に関与する方法」展

アート、建築、評論など、多面的な活動で知られる矢萩喜從郎さん（1部50L2A/第3回桑沢賞受賞）の約45年にわたる思索と活動の軌跡を400点を超える作品・資料によってたどる展覧会「矢萩喜從郎 新しく世界に関与する方法」が、2021年11月20日～2022年1月30日、神奈川県立近代美術館 葉山館で開催されました。

矢萩さんは1980年代より革新的なデザインの仕事で国際的に評価を確立。眼振（眼球振盪：眼球が常に・微小に・無意識に動くこと）という現象から導かれた独自の造形概念で多様なジャンルの表現を展開してきました。

この展覧会の見どころのひとつに、矢萩さんの代表作といわれる世界巡回展「HIDDEN JAPAN 自然に潜む日本」の出品全点の初公開があります。これは日本の風土と文化が底層で織りなされて生まれる、ざわめく現象、あるいは気配を、矢萩さん独自の視点でモノクロームの世界に呼び込んだ写真集で、国際交流基金の海外巡回展として1999年から2012年迄の14年間、世界各地（62カ国・97都市・103会場）で展示されたのち、神奈川県立近代美術館へ収蔵されました。世界巡回85点の全点展示は国内初となります。

また矢萩さんの仕事で最大の特徴と

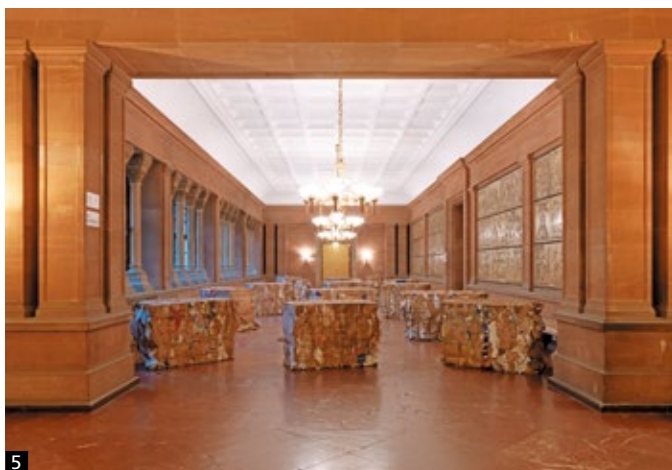
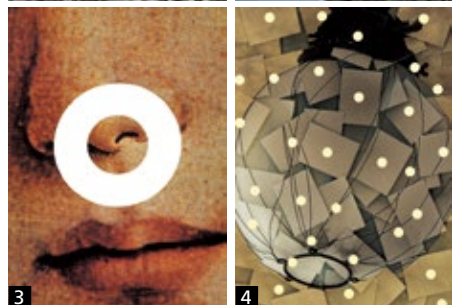
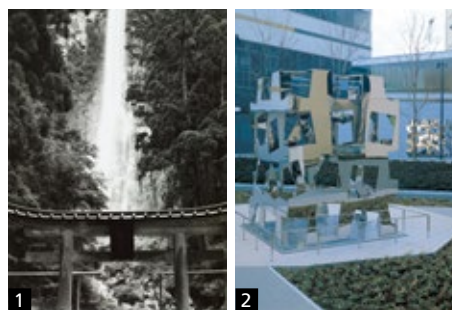


「矢萩喜從郎 新しく世界に関与する方法」会場写真

いえるコンセプチュアル・アートに挑戦した作品群は、B1サイズ（728×1030mm）のポスターと同じ形式を取っていますが、これらはサイズが自在に拡大できることをも想定した仮の姿といえるものです。このほか、彫刻作品、これまで誰も行ったことのない形式のグラフィック作品、国内外でのパブリック・アートやインスタレーションの仕事な

ど、視覚世界への思索に満ちた仕事为本展会場を天井まで埋めつくし、圧巻の展示空間となりました。

矢萩さんが「この展覧会で、何かたならぬものに接した時に感じる、あのざわつく感覚を、一瞬でも味わえる機会になればと期待しています。」とコメントしているとおり、まさに知性満載の矢萩ワールドともいえる展覧会でした。



1. 〈HIDDEN JAPAN 自然に潜む日本〉和歌山県東牟婁郡那智勝浦町/那智滝
2. 仮想境界面/物体 [彫刻]・「コンカード横浜」[設計]
3. One's Point of View
4. Hidden Accumulated Vision
5. 《仮想境界面/物体》第2回メディエーションズ・ピエンナーレ/ポズナン城文化センター、ポズナン、ポーランド

清水久和さん 2つの展覧会開催

於：長崎県美術館
21_21 DESIGN SIGHT ギャラリー 3



「清水久和のデザイン」展（長崎県美術館）の様子



初期の代表作「チューチューシャンデリア」

プロダクトデザイナー清水久和さん（1部59L2C1 / 第12回桑沢賞受賞）の個展「清水久和のデザイン」が、2021年9月15日～11月21日、清水さんの故郷長崎の長崎県美術館にて開催されました。

メーカー・キヤノンに長年所属していた清水さんは、デジタルカメラ「IXY Digital」のチーフデザイナーとして同シリーズを世界シェアNo.1に導き、世界的なデザイン賞であるドイツiF賞を複数回にわたって受賞するなど、インダストリアルデザインの分野で高い実績と評価を得ています。その後も様々な企業と連携し、日常に発見や喜びをもたらすプロダクトを世に送り出してきました。また1990年代の早い時期から行っている個人作家としての活動も見逃せません。

デザインする上で最も大切にしているのは「自分の中の『記憶』」だという清水さんの作品は、一見斬新でスマートな

ものでありながら、どこか懐かしく愛らしい不思議な魅力に溢れています。今回の展覧会では、30年余りにわたる清水さんのキャリアの中から代表作（家具、家電、日用品など）が一堂に展示され、キヤノン時代にデザインしたデジタルカメラ「IXY」や長崎県美術館所蔵の「チューチューシャンデリア」など、量産品から一点物のデザインまで幅広く展示されました*。

続いて12月5日～27日、六本木の21_21 DESIGN SIGHT ギャラリー 3でも展覧会が開催され、代表作の「鏡の髪型」シリーズや新作の「額装された鏡の髪型」、地元企業とコラボレーションした「スツール&テーブル」など多くの作品が展示販売されました。また、会期中は清水さん本人も「トーフアニチャー」シリーズをリモートワークのデスクとして使用しながら来場者をお迎えし、来場

者が直接デザイナーとの対話も楽しむ絶好の機会となりました。



1. 「IXY 410F」キヤノン 2011
2. 「SUITE FURNITURE」日本ベネックス 2021
3. 「フルーツ・テーブル・ランプ」Galerie VIVID, 2011
4. 「チェキ」（コンセプトモデル）富士フィルム 2015

*以下 URL よりレクチャー「清水久和のデザイン」（2021年10月17日配信）を視聴いただけます。
<https://www.youtube.com/watch?v=4xvQseA7xK4>
長崎県美術館での展示の様子、清水さんの作品、デザイン理論や手法について、紹介されています。



鏡の髪型（額装）



POP-UP SHOP「REMOTE WORKS @ 21_21, 01: 清水久和 (S&O DESIGN)」(21_21 DESIGN SIGHT ギャラリー 3)の様子

〈編み物☆堀ノ内〉 THE CRAZY THUNDER KNITTING 展覧会 & 受注会をGrand Galleryにて開催

〈編み物☆堀ノ内〉の展覧会&受注会が、2021年12月11日～19日に渋谷区富ヶ谷のGrand Galleryにて開催されました。〈編み物☆堀ノ内〉はニットデザイナー/グラフィックデザイナーである堀ノ内達也さん（1部H02L2A）の編み物作家名です。

堀ノ内さんは桑沢卒業後、グラフィックデザイナーとして活動し、2012年頃から肖像編み物クリエイター〈編み物☆堀ノ内〉として製作を開始。手編みと家庭用編み機を駆使して数々のオーダーメイドニット作品をまさに“編み出して”きました。また、現在ではミュージシャ

ンとのオフィシャルコラボアイテムの発売も行なうなど、活動の幅を広げています。

ギャラリーに所狭しと展示されていたのは、ブランドのキャッチコピー「狂い編みサンダーニット」に相応しい、感動的に精巧でインパクトのある驚きのニット作品たち。モチーフは、ロックシンガーや映画スター、スポーツ選手などの時代を象徴する人物から、映画の1シーンやロックファン垂涎のレコードジャケットまでバラエティに富んでいます。

今回はこれまでの作品を間近で見られる展示に加え、パーソナルオーダー「世界にひとつのあなただけのセーター」を、

堀ノ内さんに直接注文できる機会でもありました。

「モチーフにするのは自分が好きなもの。同世代で同じものを観て育ってきた人たちが「懐かしい」「これ好きだった」と僕の作品を見てくれるのは本当に嬉しい。」と語る堀ノ内さん。

海外からの問い合わせも多く、「いつか海外で展覧会やオーダー会ができればいいな、と思っています。」とのこと。今後もますます目が離せません！

URL : <https://www.amimono.tokyo/>



田村大さん 初の個展開催 & 作品集刊行

イラストアーティスト田村大さん（1部H20VD3A）が、2021年11月26日～28日、atmos千駄ヶ谷店にて、初の個展となる【ILLUSTART】を開催。スニーカーの原画に加えて、NIKEとatmosによるアニマルシリーズに関係する動物画と、そこからインスピレーションを得た自然をテーマにした作品が展示されました。

同時に初の作品集『DT』を刊行。田村さんがペンやカラーマーカーを使って手描きで制作した約230点以上のイラストに加え、初期の貴重なカリカチュアや歌舞伎、仏像などをモチーフにした作品も収録されています。

田村さんは桑沢卒業後、バスケット

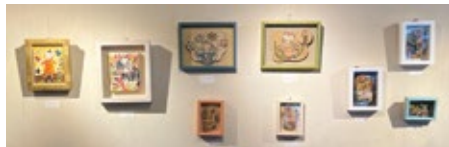
ボールの専門メーカーを経て似顔絵制作会社に7年間勤務し、3万人もの似顔絵を制作。2016年に似顔絵の世界大会であるISCAカリカチュア世界大会において総合優勝した後に独立。その後、NBA公認イラストアーティストとして活動し、野球やサッカー、テニスのスタープレイヤーのイラストを多く制作しながら人気を集めています。また大手企業やプロ野球チームとのコラボでも活躍中です。

URL : <https://dt-ltd.tokyo/?p=1987>



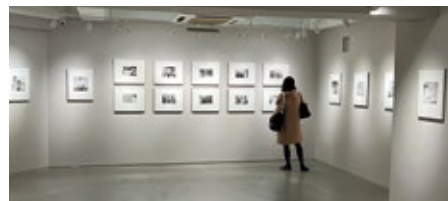
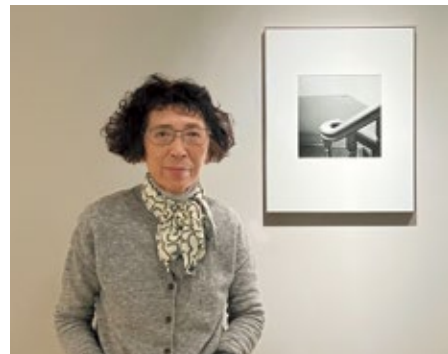
小林由里さん個展

小林由里さん（川野由里 1部 59 L研GD）の個展が2022年3月15日～26日、渋谷のPain au Sourireにて開催されました。小林さんは92年に初めての個展をされて以降、「猫」や「犬」をモチーフにした童画タッチのイラストレーションを発表されています。



潮田登久子さん個展「マイハズバンド」

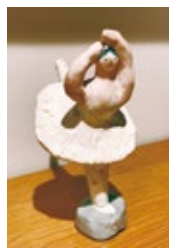
2022年1月26日～3月12日、東麻布のフォト・ギャラリー PGIにて潮田登久子さん（1部38L3写真）の2回目の個展が開催されました。今回の個展は、40年前のご主人（写真家島尾伸三氏 1974年東京造形大学卒）とご令嬢のしまおまほさん（漫画家）と、洋館の一室を間借りしての生活を撮りためた未発表作品を展示したものです。何気ない昭和の日常は懐かしくもあり、家庭人として、また、作家としてのオリジナル리티が既に開花しています。その意味で桑沢特別賞・土門拳賞受賞など大活躍の潮田さんの原点とも言える作品群でした。



小渕ももさん個展 「箱の中のバレリーナ」

2021年11月19日～28日、GALLERY 装丁夜話にて、小渕ももさん（1部38L3PK）の「箱の中のバレリーナ 小渕もも展」が開催されました。（同年5月に大阪でも発表）紙の箱の中の舞台でスポットライトを浴びてポーズしている

バレリーナが、なんとも愛らしい作品でした。陶製のユーモラスなバレリーナも登場。さまざまな表情のバレリーナが並んでいる光景に観客は思わず微笑んでいました。



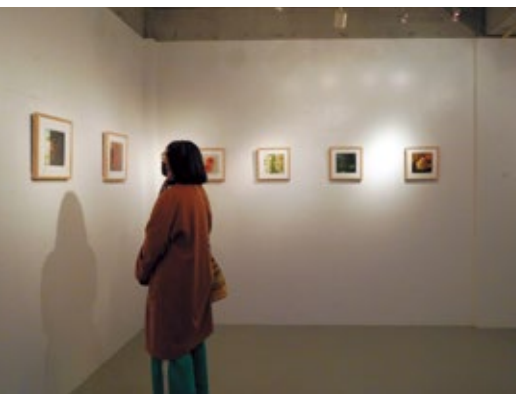
森弥栄子さん グループ展で作品を発表

森弥栄子さん（1部42L3GD）が、2022年1月28日～2月29日、新宿のギャラリー絵夢の企画によるグループ展に参加し、作品を発表しました。

向日葵のシルエットが夕暮れに浮かぶ油彩「ゆく夏」は、大胆な構図とクール

で幻想的な色づかいが印象的。水彩とドローイングは繊細かつ力強いタッチが魅力です。桑沢で長年デッサンを教えてこられ、今でも絵画アトリエの講師をされている森さんの技量が光る、心に残る展覧会でした。森さんの笑顔も素敵！

高橋恭司さん 写真展『失われた時』 インタビュー



高橋恭司さん（2部56PD2）が2022年2月16日～21日、表参道Dee's Hallで写真展を開催しました。

「僕の撮る花は実際の花より美しいのではないだろうか。」

実際の花は空間を持っているが僕の写

真の花は空間を持たない。

けれど「時」を持っている。それは記憶とつながっている。」（DM 文）

今回の写真展でいちばん伝えたかったことは「愛」—Love だと恥ずかしそうに語る高橋恭司さんは、今、世界中がコロナ禍やきな臭さでグレー色になっている中に色がほしい!と感じていると。今回のモチーフの花は以前より高橋さんの撮る花が大好きというギャラリーオーナーからのリクエスト。自らプリントとするという印画紙の花の放つ色や陰影から確かに「時」を感じました。

桑沢の学生の頃の話をお聞きました。

ももとは彫刻をやりたかったが、美大浪人後、桑沢の夜間・PD科に入学。



夜間ということもあり、年齢や職業が様々な学生が集まり、とても活気があり面白かった。講師だった戸村浩さんとの出会いは衝撃的で、立体、現代美術などの影響を受けた。PD系に就職後まもなく旅をしたN.Y.でプライベート用に写真を撮ったことがきっかけで写真の面白さを知り、帰国後すぐに仕事を辞めた。

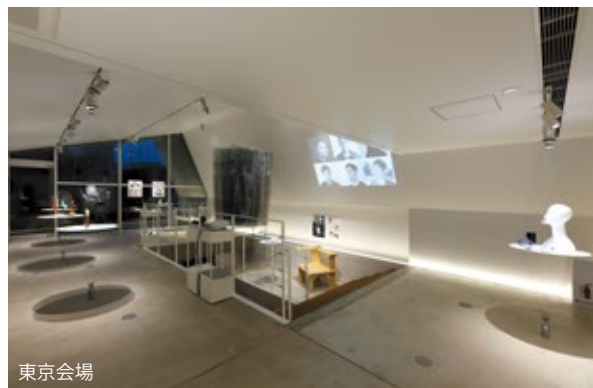
青山の書店ギャラリーに通い詰め、写真集をむさぼり読んで独学で写真を始めた。友人の紹介などで冊子や商品写真を撮影、少しずつ評判をよび、広告写真や

ファッション雑誌の写真を撮る。そのスタイルは話題をよび海外からも注目されるようになり、現在に至る。

最近の写真のほか、絵も描きはじめていますので今後また、世界に向けて発表することも考えていると語られました。



美しい感染症対策デザイン展 Vol.2 東京と大阪で開催



東京会場



大阪会場

URL :
newnormalnew.com/

*1：東京／TIERS GALLERY
大阪／Page Gallery
*2：浦田孝典、中込明、
江口海里、秋山かおり、
狩野佑真、土井智喜

2020年秋に開催された「美しい感染症対策」をテーマにした展示会の第二弾が、2021年6月に東京、7月に大阪のギャラリー*1で開催されました。

今回は「食事の時間」がテーマ！ 飲

食の際の感染症対策はソーシャルディスタンスやパーティション等を中心に行われていますが、窮屈でわずらわしい思いをすることもあります。それをデザインの力で少しでも解決したいと、桑沢同窓

生の浦田孝典さん（1部 H07L2C イ住）土井智喜さん（2部 H19SD2）をはじめ6人のデザイナー*2により、「食事の時間を安心して心地良く過ごせるプロダクト」が提案・展示されました。

横森美奈子さん New 利休 Bag 展 Vol.18

ファッションデザイナー横森美奈子さん（1部 44 L2A）の「NEW 利休 Bag 展 Vol.18」が2021年10月松屋銀座にて、山田英幸 仕履展「ポケットにぐい呑を5」と共に開催。「古今東西異文化の様々な布の取り合わせの妙を伝統工芸の利休



バッグの形で表現した」自由でPOPな作品が展示販売されました。毎回新しい発見と新鮮な驚きのあるこの展覧会。世界でひとつしかない自分だけのお気に入りを見つけようと、楽しんでいたファンが集まりました。カラフルな作品たちを背景に、作家お二人のお洒落で息の合ったファッションもお見事でした！



プロジェクト紹介

アートコモンズ『対話と創造の森』を開設

昨年11月に、構想から十数年を経て、アートコモンズ『対話と創造の森』を開設しました。『対話と創造の森』は、長野県茅野市の八ヶ岳山麓の御小屋山に繋がる標高1600m、約1600坪の森の中にある原初の自然と対話のできるアートの「場」で、「光の対話場」はその象徴となります。江戸時代からの地域の共有地である入会地（コモンズ）である当地を現代に解釈し、新たなコモンズを創造していきます。本年に入り、ロシアによるウクライナへの侵攻が始まり、私たちは危機の時代に生きています。アートコモンズでは、自然と共に長く育まれて来た日本の精神文化を、未来への可能性と捉え直し、世界に広く言葉を届けることをビジョンとして掲げています。

本年1月よりアーティスト・イン・レジデンス・出版、教育プログラムを行い、新たなコモンズの創造を通じて、他の生命と共に生きる“脱人間中心主義”的な世界のあり方を探索していきます。

2022年4月 新野圭二郎



光の対話場1 photo:NOJYO

活動としてアーティスト・イン・レジデンス、出版、教育プログラムを行い、新たなコモンズの創造を通じて、他の生命と共に生きる“脱人間中心主義”的な世界のあり方を探索していきます。

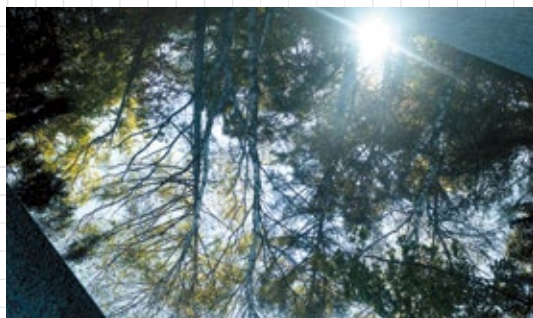
新野圭二郎（2部 H11SD2）

アートコモンズ『対話と創造の森』創作者 / 公共創造家

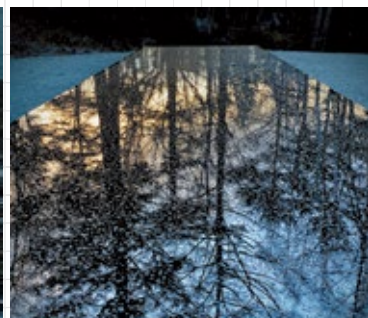
アートコモンズ『対話と創造の森』
2022 活動スケジュールはこちら。
URL: www.dialogueplace.org



森のラボラトリー photo:NOJYO



光の対話場2 photo:NOJYO



光の対話場3 photo:中村ケンゴ

高橋正実さんが iF DESIGN AWARD 2021 を受賞

高橋正実さん(1部H08L研GD)がパッケージデザイン・プロデュース・ブランディングを手がけた、お茶の老舗、宇治香園

のパッケージデザインシリーズが、世界三大デザインアワードのひとつといわれる、iF DESIGN AWARD 2021 (ドイツ)を受賞しました。

リニューアルデザインを行ったロゴを、白い紙にエンボスであしらったデザインには「優しく、美味しく、美しく、楽しい、宇治香園のお茶の世界を届けたい」という高橋さんの思いが込められています。



〈iF 受賞お知らせページ〉

<https://ifworlddesignguide.com/profile/17500-masami-design-co-ltd>



新保怜奈さん「いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会」で使用する 炬火トーチが最優秀賞を受賞

新保怜奈さん(1部H27VD3C / 伴印刷株式会社勤務)がデザインした「いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会」で使用する炬火トーチが最優秀賞を受賞しました。

新保さんは、制作の意図について「緩やかなカーブで描かれた形状は、栃木を流れる川をイメージし、緑のラインは、

栃木の豊かな自然を表現しました。また、選手一人ひとりの漲るエネルギーを力強く湾曲させた線で表現し制作しました。」と語っています。(いちご一会とちぎ国体は、2022年10月1日～11日。いちご一会とちぎ大会は、2022年10月29日～31日に開催予定。)

野村仁衣那さん SICF22 で MIKIKO 賞を受賞

野村仁衣那さん(1部2020SD3E)がSICF22* EXHIBITION 部門の MIKIKO 賞を受賞しました。本作品は、プラスチック製品の表面を微細な穴で埋め尽くし生み出されたものです。

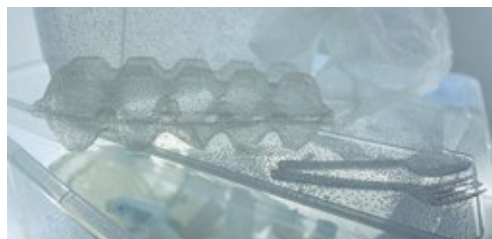
野村さんは作品について「プラスチックの纏う光の反射や熱により変形した姿の儚さを見て素材に生命感を見出し、愛着が芽生える可能性を秘めていることを知った。プラスチックが宿す光の細胞は、現代の私たちの暮らしに潜む価値を照らし出しているようだ。」とコメントしています。

審査員の MIKIKO 氏からは、「再生」

させたこの作品は、物の見方を変えることにより新たな物語を紡ぎ出している様に感じられた。」と評価されました。

*第22回スパイラル・インディペンデント・クリエイターズ・フェスティバル

SICF22 EXHIBITION 部門 受賞者展開催
2022年4月26日～5月1日



第2回九州支部展レポート 2021年4月27日～5月5日まで、福岡市美術館市民ギャラリーにて開催



本来 2020 年の秋に開催を予定していた第2回九州支部展の開催です。

出品者は 13 名。絵画・写真・陶芸・掛軸・建築・工芸・プロダクトと幅広い作品が約 80 点並びました。コロナの影

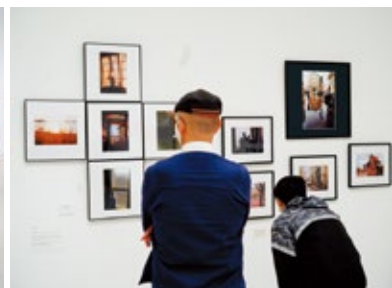
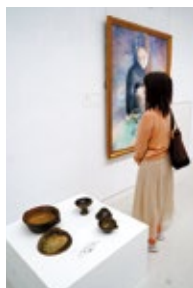
響で来館者は 1 日 50 人程度でやや少なくなりましたが、桑沢の歴史や卒業生の紹介パネルをご覧になられた方からは、「桑沢はすごいところなんですね」との感想もいただきました。

九州在住の卒業生が出会う場になったことも同窓会展の良さだと思います。作品募集のはがきを見て連絡をくださった方もいますし、出品はできなかったけれど受付当番に来てくれた同窓生、また知人から聞いて駆けつけてくれた同窓生もいました。今回も DM とポスターの制作を卒業生でグラフィックデザイナーの福



本陽一さんが受けてくださり、手弁当ながらも温かい気持ちのこもった展覧会になったと思います。2 年後に第3回展の開催を確認して終了しましたが、コロナ禍も落ち着いて新しい顔ぶれも増えて開催できることを楽しみにしています。

九州支部長 野田博生 (2部56VD1A)



関西支部長インタビュー

片岡 治さん 好きなことを思いっきり楽しむ人生

26 歳の時、私は貿易会社のサラリーマンでした。

「1 回きりの自分の人生、好きなことを仕事にしたい」と考え、好きな「デザイン」を勉強しようと思いました。しかしすでに 4 月に入っていて、御茶ノ水にきれいな学校があり入学できるとのことでしたが、もうひとつ「桑沢デザイン研究所」が気になり渋谷に行ってきました。そこはすごく汚い所で「ウワッ」と思いつつ、その校舎の「ハングリー精神」に惹かれ、思わず桑沢に入りたいと思いました。1 年間レタリングなどを勉強し、翌年 2 部グラフィックデザイン科に入学したのは 27 歳でしたが、これは正解でした。

桑沢では、先輩がはじめた「PDSD」というイベントを引き継ぎ、ドレスデザイン科が衣装を作成し、プロダクト、スペースデザイン、グラフィックデザイン科がそ

れぞれの特技を生かして、3 階のブチ抜き教室を使い、ファッションショーや講演やライブを行いました。私が実行委員長だったので、最後のファッションショーの後、ステージに呼ばれ、モデルさんからたくさんのキスをいただきました。桑沢時代はデザインの勉強だけでなく、とても刺激的な 2 年間でもありました。

現在の仕事としては、卒業後イベント会社に 20 年ほど勤めてから、2001 年に独立し、イベントコーディネーター、グラフィックやウェブデザインをしています。また、ボランティアで高齢者に「パソコンよろず相談」を行ったり、「おもちゃドク



片岡 治さん (2部55VD2)

ター」になっておもちゃを修理したりしています。趣味ではピアノを始め、人生を楽しんでいます。

仕事の実績については、ウェブサイトでご覧ください。

URL : <https://kataoka-net.com>



'05 食 博覧会・大阪 / コーディネーション



パース・ロイヤルショー兵庫県ブースの企画設計施工 (オーストラリア)

倉俣史朗さんの名作 新橋すし店「きよ友」が 香港の現代美術館「M+」に丸ごと収蔵される

2021年11月、香港に20世紀から現在にかけての世界の視覚文化（ビジュアルカルチャー）の作品などを展示する美術館「M+（エムプラス）」が開館しました。コレクションは、絵画や彫刻にとどまらず、建築やデザイン、映像などが収蔵されたアジア初の現代ビジュアルカルチャー美術館です。西九龍文化地区のウォーターフロントに位置するこの美術館は、香港の新しいランドマークとなりました。

そのなかに、世界的デザイナーとして知られる倉俣史朗さん（1部31LA/1991年に逝去）がインテリアデザインを手がけた東京・新橋のすし店「きよ友」が丸ごと移設収蔵されました。

かつて新橋駅にほど近い小道にひっそりと佇んでいたこの「きよ友」は、2004年に経営難のためのれんを下ろした後、英国の出版社ファイドンの元社長リチャー

ド・シュラグマンにより所有されましたが、店が再び開くことはなく、営業当時の姿を保ちながら保管されていたものを、2014年に「M+」が買い取ったものです。「M+」は香港への移設に1,500万香港ドル（192万米ドル）をかけ、閉店以降、手付かずの状態に残っていたすし店を、外観・内観共に再現。緩やかなカーブを描いた天井、青と赤のラインを配した扉、

オレンジ色ののれんなど、日本の伝統とモダンさが同居する空間が、内装、家具、外壁、空間ごと多くの人が鑑賞できるように、香港で蘇りました。

現在コロナ禍でなかなか海外へ出かけるのは難しいですが、香港に行った際にはぜひこのM+を見学してみてください。



© Virgile Simon Bertrand



© Kuramata Design Studio

コロナ禍での授業

ゼミ・卒業制作編 森井ユカ先生

私が担当しております3年生のゼミ科目（キャラクターマーケティング）について、2021年度の様子をお伝えします。

1年のうちの大部分がリモート授業だった2020年度を乗り越え、講師も学生もある程度は慣れた状態で始まった2021年度のゼミは、感染者減のタイミングと重なり対面授業からスタートすることができました。そしてこの後は感染者数によって、適宜リモートと対面を使い分けながら進めることになります。



広い教室にゲストの先生を迎えた様子

さてその待ちに待った対面授業、やっとコロナ前の状態に戻る！と期待でいっぱいだったのですが、始めてみると意外にも違和感がありました。ゼミ室ではなく広い教室に距離をとっての授業。放課後の雑談はNG、そもそも次の授業があるのですぐに帰宅。当然マスクをしたままなので学生の名前もなかなか覚え

られません。なんと、1年間のリモート授業に慣れてしまい、対面授業のマイナス面を感じてしまうようになってしまったのです。これは自分でも新鮮でした。

リモート授業のよいところは、講師や生徒がどこにいても受講可能であること、通学時間を制作時間に当てられること、対面よりも一対一で話す機会を作れること、提出作品の管理がしやすいことなどがありました。私の授業では、前期は具



久しぶりの対面授業の合間、気分転換に皆で屋上でシャボン玉をしたときの様子

体的な製作よりも企画することが主体なので、むしろリモート向きだったのです。とはいえ後期の卒業制作が佳境になってくると、やはり制作物の現物をチェックできないのは不安につながります。

基礎造形分野の授業の記録でもまとめられているように、将来的にはリモートと対面のいいところを取りつつ進められたら、よりよい授業になることは間違いないという確信を得た、ここ2年の授業でした。

皆さんは桑沢1年時で学んだデッサン、彫塑、ハンスカルプチャーを覚えていますか？手を動かして形を造っていくあの授業がコロナ禍でどう行われているのか興味をもち、造形分野専任講師の佐藤竜平先生（桑沢デザイン研究所副所長）と小関潤先生を取材しました。

新型コロナが蔓延した2020年の新学期は5月からの授業開始となり、対面ではなく遠隔授業と決定されました。研究所ではZoom、Google Meet、Dropboxのオンラインサービスを導入。学生が使用するデバイスとして、1年生はパソコンを持っている学生が少数なため、スマートフォンを基準としました。

次は教材の配付でした。彫塑用に油粘土、スタイロフォームなど。デッサン用に鉛筆、練りゴムなど。構成用に木棒、木工ボンドなど、当時は店も閉まっていたので細々したものまで授業開始前に、学生宅に配送しました。アトリエ一面が段ボール箱で覆われ、まるでamazonの配送センターのようでした。同時に検討されたのは遠隔授業向けのカリキュラムと進行方法でした。実際にその授業を行う、普段は超アナログ派の非常勤の先生に、遠隔授業の方法を説明する必要もありました。

●彫塑 布につつまれた立方体

モチーフとなる〈スタイロフォームで作った立方体をバンダナで包む〉を作成し、そのカタチを粘土で再現します。その過程を学生がスマートフォンで撮影。画面共有して指導しました。

●デッサン カタチを測る

モチーフになる立方体を作成し、それをデッサンしたものをスマートフォンで撮影。画面共有した画面上に先生が直接ペン入力で角度やバランスを示す具体的な添削を行いました。

また、描き始めに重要なモノの測り方をことばで指示するのが難しいので、わかりやすく解説した動画を作りました。

●デッサン 光と陰

球体のモデルを使うデッサンですが、グレーの用紙に白色の色鉛筆で描く想定デッサンに切り替えました。

●立体構成 棒による造形の演習

棒を組み合わせてつくる曲面や量感の表現は数多く展開することが学習になりますが、ひとりの展開に限界があるなか、データ共有システムや画面共有で自分以外の作品を一堂に見られるメリットがあり

ました。また、他の学生への指導を聞いて気づきを深めた学生もいました。



棒による造形 Dropbox 共有画像

遠隔授業は、近年導入したデバイスのカメラの解像度などが良くなり、作品の繊細な部分も確認できましたので新たな可能性も感じました。一方、対面授業でなくてはならないものもありました。

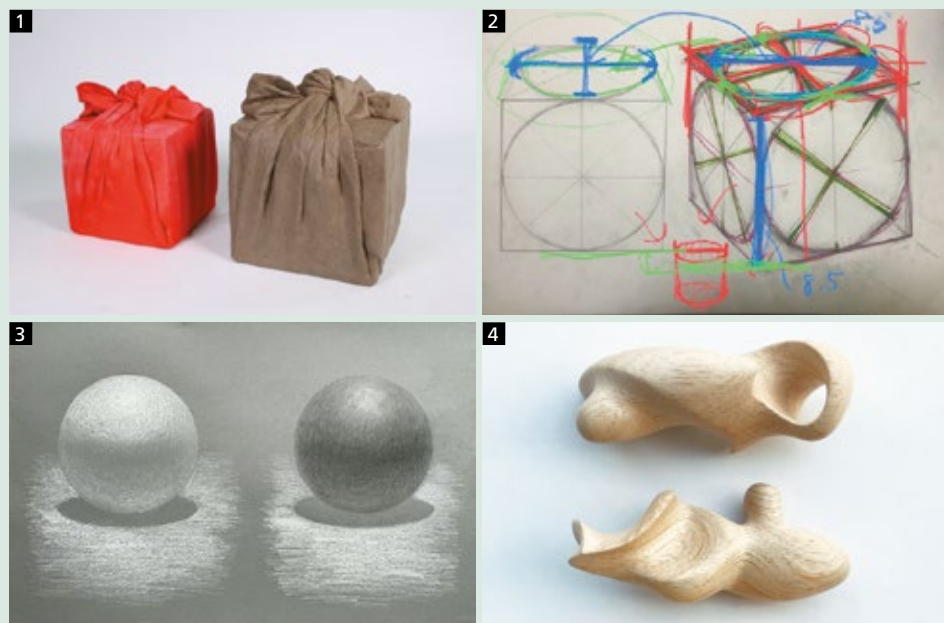
●デッサン 裸婦

生きた人間を観察する人物デッサンは重さを支える構造や量感、動きを理解するうえで貴重な体験です。換気が必要なため、寒くなる前に対面で行いました。

●ハンスカルプチャー

ノコギリやノミ、ヤスリなどを使い「削っては触る」を繰り返し、手の触覚だけを判断基準にして製作する作品は、技術指導や評価が難しく対面で行いました。遠隔になることも想定し、素材をやわらかいバルサにしました。対面授業ではアトリエを従来の倍の広さにして密を避け、先生が道具を配って回り、使っては消毒、回収しては消毒を繰り返しました。どうしても遠隔で受講する学生のために、常に画面共有ができるようにしました。

基本的には立体造形の授業は対面が適していますが、遠隔でもあくまで素材を使って試すこと、チェックと提出のしかたを工夫することで質的には遜色ない授業を成立させることができました。学生も危機感を持っていたのか、集中力がありました。しかし、システムの流れに沿った状態のままでいると、急なひらめきや、ムダな時間を過ごせない状況もでてきますので、対面と遠隔のバランスが大事だと思います。



1. 彫塑 布につつまれた立方体 2. デッサン カタチを測る 3. デッサン 光と陰 4. ハンスカルプチャー

前号(188号)に続き、まだまだ続く「渋谷」「原宿」の再開発の状況とともに、シブヤの街を舞台に活躍する同窓生の様子をお届けします。



岸体育館跡地計画 国立代々木競技場第一体育館方面をのぞむイメージ

岸記念体育会館跡地に 新たなエリアが誕生

かつて桑沢の入学式にも使われ、日本スポーツ界の総本山ともいわれた「岸記念体育会館」は、老朽化にともない2018年に解体、新宿区霞ヶ丘に移転。その跡地に東京都立代々木公園が拡張整備されることになり、計画が発表されました。

計画のテーマは「にぎわいの拠点となる公園」。現在の代々木公園のA地区・B地区の景観を含めた周辺の緑地や自然環境、道路や鉄道からの景観に配慮した緑地の創出、開かれた場を提供することで人が集う公園、にぎわい空間を提供し、渋谷・原宿のにぎわいを結ぶ拠点の創出を図るとしています。

計画では、屋外の随所に緑を配置するほか、ステージのようなものを配置する「発信テラス」^{にぎ}「賑わい広場」などを作るほか、屋内外でスケートボードができるアーバンスポーツパークを開設。建設する建物には、屋内外で飲食可能なフー

ドホール、多世代健康増進スタジオなどが設けられる予定です。

2024年3月に使用開始予定で、今回整備するエリアは「みどり集いのゾーン」と位置付け、同所に隣接する東京都水道局のポンプ所として現在利用中のエリアは今後、「雑木林とヒーリングガーデンのゾーン」として、一帯で利用できるよう回遊性のある空間に整備する予定とのことです。

渋谷公園通りの 勤労福祉会館が変身

桑沢からほど近い公園通りのほぼ真ん中の渋谷パルコの前にある「勤労福祉会館」。かつてはここで卓球を楽しんだり、ランチをしたりした思い出のある人も多いかと思います。時代の変遷により、東

京におけるアール・ブリュット*等の振興の拠点として、2020年2月にリニューアルオープンしました。

アートを通してダイバーシティの理解促進や包容力のある共生社会の実現に寄与することを目指し、アール・ブリュット等をはじめとするさまざまな作品の展示等により、一人ひとりの多様な創造性や新たな価値観に人々が触れる機会を創出する施設として生まれ変わりました。

このほか「NHK放送センター」の建て替え(2036年竣工予定)、「東急Bunkamura」の大規模改修(2023年から長期休館)を含め、ますます変遷する「渋谷」「原宿」です。

*アール・ブリュット(Art Brut)は、フランスの芸術家ジャン・デュビュッフエによって提唱されたことばです。今日では、広く、専門的な美術の教育を受けていない人などによる、独自の発想や表現方法が注目されるアートを表します。



リニューアル後の渋谷区勤労福祉会館
(1階に東京都渋谷公園通りギャラリー)

GOO CHOKI PARのアートワークが 渋谷の空を彩る

2021年11月25日～2022年1月10日の期間、渋谷スクランブルスクエアの展望施設「SHIBUYA SKY」にて、デザインユニット「GOO CHOKI PAR」*が描く空想の花々のグラフィック装飾「Flower Wrapping(フラワーラッピング)」が開催。SHIBUYA SKYからの眺望を多種多様な花々が彩り、期間限定の特別な景色が演出されました。



* GOO CHOKI PAR メンバー：浅葉 球 (1部 H18L3B)、飯高健人、石井 伶 (1部 H18L3B)



Organizer SHIBUYA SKY / Project Director Keisuke Arikuni (Flowplateaux) / Creative Director Daichi Sato / Graphic Designer GOO CHOKI PAR / Sound Composer Setsuya Kurotaki (NOIR) / Visual Programmer Satoshi Horii (Rhizomatiks) / Technical Director Tatsuya Motoki (Rhizomatiks) / Lighting Designer Mitsunari Marui (Toio) / Space Designer Shinya Akahane / Constructor / Designer Keisuke Yoshida (NOMURA Co., Ltd.) / Constructor / Manager Yuya Endo (NOMURA Co., Ltd.) / Photographer / Videographer Ichiro Mishima (Artifact) Rentaro Hori (Artifact) Ryoma Itagaki (Artifact) / Model ermhoi / WEB Developer Yo-hey Ikahata (STEKWIRE)

「シブヤク、ニッポン。」トークセッションがライブ配信されました (Japan Creative 主催)

2021年5月21日、西武百貨店 渋谷店にて、工藤強勝さん（1部48L3GD / 桑沢デザイン研究所所長）と水谷孝次さん（2部50GD2）が「渋谷・日本文化の未来を語る」をテーマに語り合いました。

両者が桑沢の学生だったころ、渋谷にはいつもクリエイティブが溢れていました。小劇場「ジャンジャン」、「天井桟敷館」、「安部公房スタジオ」、「PARCO」など文化発信地が点在し、演劇やコンサートのポスターや看板などで街がキャンパスになっていました。寺山修司の名言「書を捨てよ、街へ出よう」まさにその実践。桑沢で学び、往き帰りに渋谷の街で学ぶ時代でした。



水谷さんは卒業後、広告業界のデザインで華々しく多くの作品を制作してきましたが、バブル期にかかる頃、デザインに対する考え方が変わってきました。デザインを通して世の中を幸せにするソーシャルデザインの方向へと。そして笑顔のポスターアート Merry Project を2002年にラフォーレ原宿でスタート。以後笑顔のコミュニケーションデザインとして進化し続けています。水谷さんは、これからの渋谷、未来のデザインは「共生社会の空気」をデザインすること、地球を笑顔にしていくなさステナブルなデザインが必要だと語っています。

工藤さんは卒業後、長年「SD」や「太陽」など建築からアートなどの書籍やタイポグラフィーを中心にデザインしてきましたが、二十数年前からデザイン教育に携わ



るようになり、現在は桑沢デザイン研究所の所長となりました。今、学生にはクリエイティブシンキング、自由な発想、アイデアをどう開発するかの重要性を伝えていきます。工藤さんは、最近は産官学福の連携で渋谷区と桑沢に新たなフィールドができたことに感謝しています。この渋谷を「知のシブヤ」にするためにこれからも文化、デザインに貢献していきたいと語っています。

〈アーカイブ動画配信中！シブヤク、ニッポン。トークセッション〉
<https://www.youtube.com/watch?v=eSOAY-pXs4Q>

産官学福の「シブヤフォント」2021年 新柄・フォント発表会 SHIBUYA FACTORY 428/294

2021年12月5日に「シブヤフォント」新データ発表会が開催されました。

渋谷区内で暮らし・はたらく障がいのある人が描いた文字や絵を使って、桑沢デザイン研究所の学生がフォントやパターンの新データと商品提案をしました。どのよ

うな過程でデザインが出来上がっていったのか、YouTubeの発表会でご覧ください。現在「シブヤフォント」は、300種以上の商品になっています。

<https://youtu.be/sp3kAhj8PQg> 前半
<https://youtu.be/XGWbo3ie6lo> 後半



渋谷区立北谷公園 ログodeデザインが決まりました



2021年4月に渋谷区立北谷公園が開園。公園のロゴには、桑沢デザイン研究所の学生を対象としたログodeデザインコンペで最優秀賞に選ばれた板谷言葉さん（コンペ当時：総合デザイン科3年VD）の提案が採用されました。



＊ログodeデザインコンセプト（出典元：渋谷区立北谷公園公式サイト）
北谷公園を訪れた人々がいきいきと自分たちの活動に励み、躍動する様子をイメージし、渋谷の「し」と「s」をかけ合わせた形と、北谷公園のコンセプトである「キャンパス」に自由に絵を描く筆の運びをモチーフとしたデザインで表現しています。



「かんじるえ」
大谷陽一郎
(2部2015VD2A)
福音館書店
定価: 1,320円(税込)



「KUROMONO」
林青那 (1部H21VD3B)
ブックレーベル Baci
定価: 5,000円 (税別)



「遠巻説百物語」
京極夏彦 (1部57L2B)
KADOKAWA
定価: 2,530円 (税込)



「パスタの本」
有元葉子 (1部37L2P)
東京書籍
定価: 1,760円 (税込)



「神力の薬師(転生後)は、
戦国武将と結婚を前提に
初恋します!」
高嶋育 (1部H21VD3B)
KADOKAWA
定価: 715円 (税込)



「まじさかさじま」
伊藤文人 (1部48L3GD)
みらいブリッシング
定価: 1,350円 (税別)



「おぼけ」と「ことば」
のあやしいはなし
京極夏彦 (1部57L2B)
文藝春秋
定価: 1,760円 (税込)



古武家賢太郎作品集
「Kentaro Kobuke」
古武家賢太郎
(1部H09L研GD)
HeHe
定価: 5,500円 (税込)



「ミニチュア
おりがみベカリ」
横田洋子
(1部1993VD)
主婦の友社
定価: 1,650円 (税込)



「珍電子楽器 LOVE」
オオハシヒロミチ
(1部57L研GD)
リットーミュージック
定価: 2,970円 (税込)



「ひよこは にげます」
五味太郎 (2部42PDID)
福音館書店
定価: 990円 (税込)



写真集『SPACE』
青木健二 (2部63VD2B)
Kehrer Verlag
Germany
定価: 12,000円 (税別)



写真集『マイハズバンド』
(2冊組)
潮田登久子 (1部38L3写真)
torch press
定価: 5,500円 (税込)



「石元泰博生誕100年」
石元泰博 (1996・
第4回桑沢特別賞受賞)
平凡社
定価: 3,300円 (税別)



DT
田村大 (1部H20VD3A)
主婦の友社
定価: 2,420円 (税込)



「有元家の
さもないおかず」
有元葉子 (1部37L2P)
三笠書房
定価: 1,650円 (税込)



「ひとりを愉しむ 食事」
有元葉子 (1部37L2P)
文化学園文化出版局
定価: 2,750円 (税込)



「6Bの鉛筆で書く」
五味太郎 (2部42PDID)
プロンズ新社
定価: 1,760円 (税込)



大沢金一さん 細密画作品集を自費出版

大沢金一さん (1部45L3GD) が「大沢金一 生きもの図鑑 and ふるさと草加市の図鑑」を自費出版しました。学研の図鑑シリーズや科学雑誌、新聞の連載挿画、地元草加市の広報誌の連載で昆虫や鳥、野草などの細密画を半世紀手がけてきた作品の集大成です。

大沢さんがリアルに描いた動物や恐竜、鳥や昆虫は写真よりそれらしい細密画。

爬虫類のうろこや昆虫の足のとげの本数まで1本1本正確に描き、動植物の生態やくらしを伝えてきました。近年はペットの肖像画や草加の懐かしい風景画などを描いています。

コンピューターグラフィックス全盛のこの時代に手仕事の味わいや可能性を見つけてもらいたいと語っています。

受賞のお知らせ

- 鳩山町町制施行 40 周年記念ロゴマーク 最優秀賞・優秀賞 野口大輔 (2 部 H29VD2B)
- HB ファイルコンペ Vol.32 中村圭介賞 カワタアキナ (2 部 H24VD2B)
- 年鑑『Graphic Design in Japan 2022』JAGDA 賞 2022 芸術祭の告知モーショングラフィック「PICNIC ART FESTIVAL 2021」 高田唯 (2 部 H14VD2A)
- FM-1 グランプリ センスパッチリで賞 Vinyl Collections 関口雅治 (2 部 H13PD2)
- 第 7 回東京装画賞 平和紙業賞 マナベレオ (2 部 H29VD2B)
- The Architecture MasterPrize 2021 Honorable Mention ARAKAWAGRIP MUSEUM 浦田孝典 (1 部 H17L2C イ住)
- SICF22 MIKIKO 賞 Life Through Holes 野村仁衣那 (1 部 2020SD3E)
- 日本タイポグラフィ年鑑 2022 審査委員賞 『桑沢デザイン研究所 2022 年度学校案内書』 渡辺和音 (1 部 H16L3B)
- 日本タイポグラフィ年鑑 2022 部門別ベストワーク / 学生 『かろうじて、文字』 工藤達也・齋藤大知 (共に 2 部 2020VD2A)
- 日本タイポグラフィ年鑑 2022 学生賞グランプリ 『日本語書体「凌霄花」』 児玉篤司 (1 部 2020VD3B)
- IAG AWARDS 2021 準オーディエンス賞 Rhinoceros 梅村誠 (2 部 H20 VD2A)
- 令和 3 年度東京都功労者 教育功労 安達市三 (1 部 36D3 デ)
- 第 105 回二科展デザイン部門 B 課題ポスター部門 奨励賞 澁屋史明 (1 部 H04 L 研 GD)
- 第 68 回日本伝統工芸展 入選 紬織帯「余芳」 佐々木苑子 (2 部 38VDB = 人間国宝)
- 第 12 回 パンフー 学生 T シャツデザインコンテスト 審査員賞受賞 梅村琉貴 (昼間部総合デザイン科 1 年在籍 '21 現在)
- 第 34 回日本の自然を描く展 優秀賞 コンビナート光景 B 高田英夫 (1 部 44L3GD)
- 第 34 回日本の自然を描く展 入選 コンビナート光景 A 高田英夫 (1 部 44L3GD)
- IMA next THEME #20 「RELATIONSHIP」 SHORT LIST a place we call home 須田マリザ (1 部 2020VD3B)
- IF DESIGN AWARD 2021 Ujiko Japanese Tea Renewal Package 高橋正実 (1 部 H08L 研 GD)

2021 年からの個展・エキシビジョン MEMO ●同窓会に連絡があったものの掲載いたしました。ご協力ありがとうございました。次回のニュースでもお待ちしております。

bettan-chan-ten	4 月 1 日～ 18 日	東京・向島 一軒家カフェ ikkA	林ゆみこ (2 部 H05VD2B)
第 71 回モダンアート展	4 月 2 日～ 16 日	東京・上野 東京都美術館	花島平 (1 部 49L3ID) ほか
「ぼくのスケッチブック」	4 月 5 日～ 11 日	東京・神田 ほぼ日神田ビル 1F TOBICHI 東京	田中靖夫 (1 部 39 L3 写真)
生平桜子 個展「シ (さん)」	4 月 18 日～ 27 日	京都・中京区 木と根 分室 GALLERY LAKEWALL	生平桜子 (1 部 H26VD3C)
wind 野 風 衣 展	4 月 20 日～ 24 日	東京・銀座 銀座第 7 ビルギャラリー 2F	山本順子 (1 部 45D2B)
「ぼくのスケッチブック」	4 月 23 日～ 25 日	京都・下京区 TOBICHI 京都	田中靖夫 (1 部 39 L3 写真)
HB WORK Competition vol.1 Exhibition	4 月 23 日～ 25 日	東京・神宮前 HB GALLERY	真鍋玲央 (2 部 H29VD2B) ほか
桑沢デザイン研究所同窓会第 2 回九州支部展	4 月 27 日～ 5 月 5 日	福岡・福岡市美術館 市民ギャラリー E	同窓会九州支部有志
Was it a car or a cat I saw? (私が見たのは車?それとも猫?)	4 月 29 日～ 5 月 5 日	東京・等々力 Fluss	後藤洋平 (2 部 H23VD2B) ほか
小淵もも作品展～箱の中のバレリーナ～	5 月 17 日～ 25 日	大阪市・中央区 MANIFESTO GALLERY	小淵もも (1 部 38L3PK)
POLYPHONIC COLORS	5 月 25 日～ 6 月 5 日	東京・南青山 ギャラリー 5610	近藤正一 (1 部 47L2B) ほか
SPORTS GRAPHIC	6 月 8 日～ 7 月 7 日	東京・銀座 ギンザ・グラフィック・ギャラリー	浅葉克己 (1 部 34L 基 A)、 浅葉球 (1 部 H18L3B) ほか
下田昌克「トゲとキバ」展	6 月 11 日～ 27 日	東京・渋谷 JINNAN HOUSE 内 HAUS STUDIO	下田昌克 (1 部 63L 研 GD)
出版記念展 林青那『KUROMONO』	6 月 12 日～ 27 日	兵庫・丹波篠山 archipelago	林青那 (1 部 H21VD3B)
小淵もも作品展～私の庭シリーズ～	6 月 25 日～ 30 日	東京・世田谷 ギャラリー自由が丘	小淵もも (1 部 38L3PK)
WHAT'S KNIT? 展ーこれが、ニット。これも、ニット	7 月 7 日～ 11 日	東京・神宮前 TIERS GALLERY	TAKT PROJECT / 吉泉聡 (1 部 H17 1B) ほか
石元泰博写真展「色とかたち」	7 月 3 日～ 20 日	東京・品川 キヤノンオープンギャラリー 1	石元泰博 (1996・第 4 回桑沢特別賞受賞)
林ゆみこのイラストレーション展「Kira Kira ten」	7 月 3 日～ 31 日	東京・目白 池袋ロケットカフェ	林ゆみこ (2 部 H05VD2B)
出版記念展 林青那『KUROMONO』	7 月 16 日～ 31 日	東京・渋谷 東塔堂 Totodo	林青那 (1 部 H21VD3B)
たのしいグループ展「ニューコンポジション 2」	7 月 17 日・18 日	群馬・太田市 まちかどふれあい館	倉田鏡榮 (1 部 62D2B) ほか
熊谷守一・五味太郎の絵本と版画展	7 月 30 日～ 8 月 14 日	東京・駒込 ときの忘れもの	五味太郎 (2 部 42PDID) ほか
祈りの花瓶展 2021 ーナガサキを忘れないー	7 月 30 日～ 8 月 10 日	東京・千駄ヶ谷 Popularity gallery & studio	毎熊那々恵 (1 部 H27VD3A)
江原梨沙子・大谷陽一郎 2 人展「孤帆の遠影」	7 月 30 日～ 10 月 29 日	東京・銀座 モンブラン銀座本店 ショーウィンドウ および店内 2F・3F	大谷陽一郎 (2 部 H27VD2A) ほか
第 34 回日本の自然を描く展	8 月 4 日～ 13 日	東京・上野 上野の森美術館	高田英夫 (1 部 44L3GD) ほか
モラトリアムに包まれて	8 月 8 日～ 10 日	東京・神宮前 デザインフェスタギャラリー WEST 1-D	佐藤ころこ (1 部 VD 在学中) ほか
2020 年度都立工芸高校マシンクラフト科卒業制作展 「花笑む」	8 月 9 日～ 14 日	東京・神田神保町 文房堂ギャラリー 4F	足立悠馬 (1 部総合デザイン科在校生) ほか
没後 30 年 倉俣史朗展	8 月 12 日～ 22 日	東京・渋谷 Bunkamura Gallery	倉俣史朗 (1 部 31LA)
桑沢デザイン研究所 羽金知美ゼミ展「日々続く道」	8 月 19 日～ 24 日	東京・新宿 Alt_Medium	生住凜、伊藤司、今城七海、大塚洋矢、 久保史織、黒須彩花、古月夕渚 (羽金知美ゼミ)
「清水久和のデザイン」	9 月 15 日～ 11 月 21 日	長崎・長崎市 長崎県美術館	清水久和 (1 部 59L2CID)
第 68 回日本伝統工芸展	9 月 15 日～ 27 日	東京・日本橋 日本橋三越本店 本館 7 階 催物会場	佐々木苑子 (2 部 38VDB = 人間国宝) ほか
建築家・板倉準三と高島屋の戦後復興 「輝く都市」をめざして	9 月 15 日～ 2022 年 2 月 13 日	東京・日本橋 高島屋資料館 TOKYO	山田修二 (1 部 34L 研 A) ほか
古武家賢太郎 最新作品集 "Kentarō Kobuke" 出版記念 個展	9 月 17 日～ 29 日	東京・渋谷 BOOKMARC	古武家賢太郎 (1 部 H09L 研 GD)
みらいパッケージ展 100 人が描く、これからのパッケージデザイン	9 月 17 日～ 29 日	東京・渋谷 渋谷ヒカリエ 8/CUBE1, 2, 3	永沼真一郎 (1 部 H09L2A) ほか
「写真家・石元泰博の眼」	10 月 2 日～ 11 月 3 日	愛媛県・八幡浜市美術館	石元泰博 (1996・第 4 回桑沢特別賞受賞)

「リズム」	10月2日～11月3日	東京・恵比寿 アメリカ橋ギャラリー	染岡菜月（1部 H28VD3A）ほか
林 ゆみこ イラストレーション展「waku waku」	10月2日～31日	千葉・柏 カフェ カルディー	林ゆみこ（2部 H05VD2B）
横森美奈子の NEW 利休 Bag 展 Vol.18	10月6日～12日	東京・銀座 松屋銀座 7F 遊びのギャラリー	横森美奈子（1部 44L2A）
個展「すっぴん」	10月6日～12日	東京・神宮前 ギャラリー ルモンド	かわいひろ（1部 H25PD3D）
わいないきょうこの秋田暮らし展	10月10日～18日	東京・世田谷区桜 パセリセージ	和井内京子（1部 53L 研写真）
生平桜子展「投影」	10月15日～11月8日	東京・自由が丘 IDÉE GALLERY AND BOOKS	生平桜子（1部 H26VD3C）
「師弟、それぞれの写真表現」	10月20日～12月2日	東京・赤坂 FUJIFILM SQUARE 写真歴史博物館	大辻清司（1996・第4回桑沢特別賞受賞）、牛腸茂雄（1部 42L3 写真）
Best Artists Exhibition 16th 展	10月27日～11月1日	東京・銀座 ミレージャギャラリー	原由美子（1部 43L3PK）ほか
林まさのり「FELT FELLOWS」	10月30日・31日	東京・上大崎 アン＝シャロット・グダール・パリ	林まさのり（1部 47L2A）
The Roots of Pattern	11月9日～14日	東京・神宮前 ギャラリー ルモンド	千海博美（1部 H16L3B）
村西恵津作品展「無国籍な夢」	11月16日～30日	東京・銀座 銀座伊東屋 K.Itoya B1F	村西恵津（1部 55L2B）
矢萩喜徳郎「新しく世界に関与する方法」	11月20日～2022年1月30日	神奈川・逗子 神奈川県立近代美術館 葉山館	矢萩喜徳郎（1部 50L2A）
Dai Tamura 1st Art Exhibition "ILLUSTART"	11月26日～28日	東京・千駄ヶ谷 atmos 千駄ヶ谷店	田村大（1部 H20VD3A）
POPWORKS 2021 ディスタンス	12月2日～12日	群馬・板倉町 わたらせ自然館&WEB 会場	倉田鏡榮（1部 62D2B）ほか
petit 吉永邦治展	12月3日～8日	兵庫・加古川 藤川宅・外階段2階 個展会場	吉永邦治（2部 40PD イ住）
REMOTE WORKS @ 21_21 01: 清水久和 (S&O DESIGN)	12月5日～27日	東京・赤坂 21_21 DESIGN SIGHT ギャラリー 3	清水久和（1部 59L2CID）
編み物★堀ノ内 THE CRAZY THUNDERK NITTING	12月11日～19日	東京・代々木 Grand Galler	堀ノ内達也（1部 H02L2A）
Spiral Xmas Market 2021 「Limited Gallery」	12月17日～26日	東京・表参道 スパイラル エスプラナード	鈴木一成（1部 H06L 研写真）
『なりたい自分になるために、僕が選択してきたチャレンジと自己ベスト更新』	12月27日	東京・代官山 蔦屋書店 SHARE LOUNGE	田村大（1部 H20VD3A）
	2022 年		
今井雅洋個展 [a.un]	1月6日～16日	東京・小伝馬町 JINEN GALLERY	今井雅洋（1部 49L3GD）
Nina Nomura Exhibition 「Life Through Holes」	1月8日～28日	東京・目黒 RISE GALLERY	野村仁衣那（1部 2020SD3E）
潮田登久子写真展「マイハズバンド My Husband」	1月26日～3月12日	東京・東麻布 PGI	潮田登久子（1部 38L3 写真）
「クリエイター 100 人からの年賀状」展 vol.17	1月20日～2月28日	東京・神田 竹見 尾本帖本店 2F	工藤強勝所長ほか、研究所教員・卒業生
触れられない展	1月21日～30日	東京・多摩川 galleryfutari	横溝拓巳、高全民、秋月響、在校生
マツモト建築芸術祭（MAAF）	1月29日～2月20日	長野県松本市にて開催 アルモニーピアン、コーヒーラウンジ 紫陽花、旧開智学校	中島崇（1部 H05L 研写真）ほか
goen° グループ展 【POWERSPOT° ～旅は道連れ∞ 世はご縁°】	2月5日～3月5日	東京・代官山 goen°	畑秀樹（1部 H07L 研イ住）ほか
池崎一世・佐藤麻優子・染井冴香展「whereissheus」	2月8日～3月19日	東京・銀座 ガーディアン・ガーデン	佐藤麻優子（1部 H25VD3B）ほか
僕たちの写真展 ランドセルとたからもの、そして今	2月11日～20日	東京・三鷹 しろがね Gallery	阿部高之（1部 H10L 研写真）
マナベレオ個展「そ。」	2月18日～23日	東京・神宮前 HB Gallery	マナベレオ（2部 H29VD2B）
dress 展	3月6日～27日	東京・向島 一軒家カフェ ikkA	林ゆみこ（2部 H05VD2B）
MIYASHITA CULTURE PARK ～NEW STAGE～	3月5日～18日	東京・渋谷 MIYASHITA PARK	「卒業生作品展 桑沢 2022」からの選抜作品
Jumanji meets Design	3月12日～13日	群馬・渋川 伊香保 BASE &:freedom 内 Jumanji	岡村健汰、東郷光花、田中詢人、畠中正太郎、田中亮磨、鈴木風我（2022PD）楠木陽允（2022SD）「桑沢 2022」作品
小林由里個展「Miracle drop」	3月15日～26日	東京・渋谷 バン・オ・スリール	小林由里（1部 59L 研 GD）
桑沢デザイン研究所 アドバタイジング/V2D2B 卒業制作展	3月18日～21日	埼玉・戸田 池田紙工 第三倉庫	桑沢デザイン研究所 アドバタイジング/V2D2B
YukiOnodera_ こここ、ハルーンはない。	3月19日～4月9日	東京・銀座 RICOH ART GALLERY	オノデラユキ（1部 58D 研 A）
くわくわ展示会	3月21日～22日	東京・渋谷 Studio Sola スタジオソラ	桑沢デザイン研究所 自治会主催 昼間部有志 21 名
プチポップワークス 2022 あにまるわーくす	3月22日～27日	群馬・館林 お茶屋のあ	倉田鏡榮（1部 62D2B）ほか
Punch The Public	3月25日～31日	東京・荒川 KENMA studio	佐塚穂（1部 2020VD3C）ほか
KENTARO KOBUE - TOUCH HAS A MEMORY	4月2日～17日	広島・広島市中区 READAN DEAT	古武家賢太郎（1部 H09L 研 GD）
吉永邦治展 異境への旅	4月2日～6月30日	大阪・富田林市 大阪大谷大学博物館	吉永邦治（2部 40PD イ住）
生誕 100 年 朝倉摂	4月16日～6月12日	神奈川・葉山 神奈川県立近代美術館 葉山館	朝倉摂（1993・第1回桑沢特別賞受賞）

同窓会事務局より

- 今回も同窓会ニュースの原稿を多くのみなさんよりいただきましてありがとうございます。仕事の報告、個展の案内・報告、コラム、受賞、出版情報などお知らせください。またデザイン関連以外のこと（例えば、ボランティア活動、自慢のコレクション、ショップ経営など）や若い人の活躍、地方のニュースなども大歓迎です。原稿をお待ちしております。次号（190号）は2023年4月中旬に発行の予定です。（原稿締切2023年2月末）
- 同窓会名簿の充実のため、住所移転や同窓会ニュースの送付先変更などありましたら必ず同窓会事務局までご連絡ください。旧住居表示のままの方は郵便物が届かなくなります

ので住所変更をお願いいたします。また、同窓会ニュースはクロネコDM便にて発送しております。建物名を省略しておりますと届かない場合もございますので建物名もお知らせください。

● みなさんのお知り合いで同窓会ニュースが届いていない同窓生がおられましたら同窓会までご連絡くださいますようお願いいたします。また、お亡くなりになられた同窓生に依然として同窓会からのお知らせや同窓会ニュースが届けられている場合は、ご家族の方から事務局へご一報戴ければ、配送停止の手続きをいたします。

KDS NEWS

dosokai

2022 no.189

2022年5月6日発行

桑沢デザイン研究所同窓会

150-0041 東京都渋谷区神南1-4-17

TEL 03-3462-4029 FAX 03-3462-4090

✉ info@kds-doso.net 🌐 www.kds-doso.net/

📘 www.facebook.com/kdsdoso 📧 kuwasawadoso

発行編集

桑沢デザイン研究所同窓会 大槻高康（1部48L3GD）
田辺千晶（1部56L2C イ住）
赤羽なつみ（1部49L3PK）
宮澤太地（2部H17VD2B）
GRID + 矢島裕文（1部H18L3B）
雑賀吉人（2部H19VD2A）／他

デザイン

本田理恵（1部H20VD3C）
株式会社 アトミ